



声のラン

声

北信濃地区の南28号沿いで新しい施設の建設が進んでいます。

この施設は市の防災学習交流センターとして整備されていると聞きましたが、いつごろ完成するのでしょうか？

また、防災学習交流センターの目的について教えてください。



答

新しい市の防災学習交流センター「そなえーる」は、平成22年4月の開設を目指して整備を進めています。

「そなえーる」では、地震などの災害や火事で発生した煙から避難する体験ができるほか、災害の予防などについて学ぶことができます。

千歳では、活断層による地震災害や樽前山の噴火による火山災害、大雨による水害、航空機災害など、さまざまな災害が発生する可能性があります。

市は、市民と防災関係機関が一体となって災害に備え、災害が発生したときの救急救護活動を効果的に行うため、「地域防災計画」をつくっています。これまでに市民を対象とした防災訓練や防災講座、小・中学生への防災教育などを行い、災害に強い組織や人づくりに取り組んできました。

この結果、防災体制の整備が進み、市民の防災に対する意識は高まりつつあり、町内会が中心となる自主防災組織の結成率は56パーセントになっています。しかし、この数字は全国の平均値を下回っ

防災学習交流センターはいつ完成するの？

《60歳代男性》

ています。

こうしたことから、市は防災能力と市民の防災意識の一層の向上を進めるため、北信濃地区に防災とその学習を行う拠点施設を整備しています。

この防災学習交流施設は「そなえーる」のほか、大規模な防災訓練を行うことができる広場やヘリポートなどの「Aゾーン」、消火体験や救出体験ができる「Bゾーン」、野営生活などが体験できる「Cゾーン」(*)で構成されています。

この施設は、「知る(災害学習)、備える(防災訓練)、体験する(災害体験)」ことを通して市民の防災意識を高めることを目的としています。

※「Cゾーン」は平成23年春の完成予定です。

危機管理課防災係
☎(24)0144



平成22年4月開設予定の防災学習交流施設(完成予想図)

【ワンポイントメモ】

「そなえーる」の地震体験コーナーでは「関東大震災」や「阪神淡路大震災」など、8つの過去の大きな地震を疑似体験することができます。また、震度1から7までの地震を段階的に体感することができます。モニターで揺れの波形を見ることができます。

案内

「声のラン」では、おもに「市長への手紙・ポスト」や「広報広聴モニター」の声と、その答えをご紹介します。そのほか皆さんからの一般的な質問などもご紹介しますので、普段から疑問に思っていることなどを、お手紙などでお寄せください。ただし、ほかの市民にも参考になる内容を採用させていただくため、個人的なことなどを掲載することはできません。また、質問の内容を確認する必要上、お手紙には必ず連絡先と名前をご記入ください。【〒066-8636 / 千歳市東雲町2丁目34 / 千歳市企画部広報広聴課 宛】